

# 平成28年度 病虫害発生予察情報

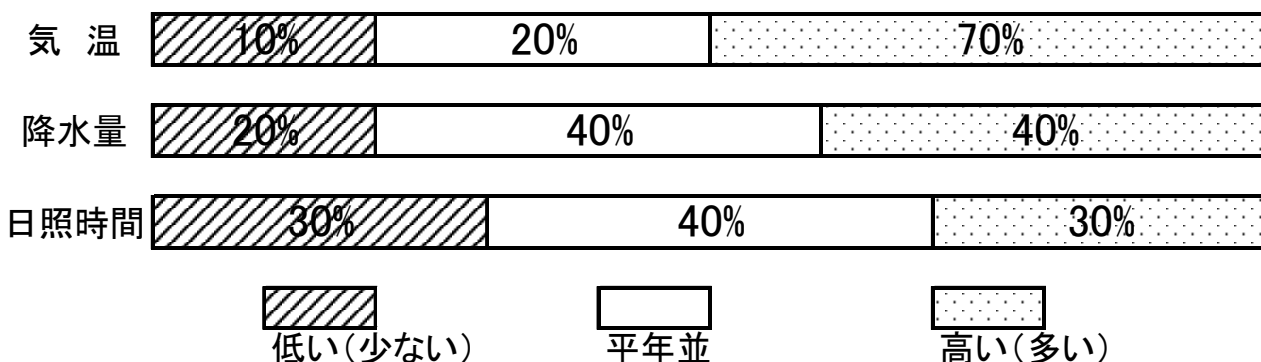
## 発生予報第3号（6月）

平成28年 5月27日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ	平年並 やや多い 平年並
果樹	ナシ	黒斑病 黒星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ハダニ類	やや少ない～平年並 平年並～やや多い 平年並～やや多い 平年並～やや多い 平年並～やや多い
野菜	カキ タマネギ	カキクダアザミウマ ポトリ糸菌による葉枯れ べと病 腐敗病・軟腐病	平年並 少ない 多い 多い

中国地方1か月予報(5月28日～6月27日・広島地方気象台5月26日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) ヒメトビウンカ

#### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭/50株当たり（平年0.02頭）、発生圃場率は0%（平年1.94%）で発生量は平年並みである。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%と低い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

##### (2) ニカメイチュウ（第1世代）

#### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は出雲市では4月第5半旬と平年と比べて早い。5月第5半旬までの誘殺数は18頭（平年6.5頭）とやや多い。
- ② フェロモントラップへの第5半旬までの誘殺数は206頭（平年31.1頭）と平年に比べて多い。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、平年と比べてやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第1半旬と平年並み、第5半旬までの誘殺数は4頭（平年37.6頭）であり平年と比べてやや少ない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.6頭/50株当り（平年0.9頭）、発生圃場率は33.3%（平年37%）で発生量は平年並みである。
- ③ 前年の新成虫の誘殺数は平年比34%で、越冬量は平年と比べて少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.9%（平年1.9%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップでの初飛来日は4月16日で平年並みである。
- ② フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである
- ③ 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップでの初飛来日は4月16日で平年並みである。
- ② フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

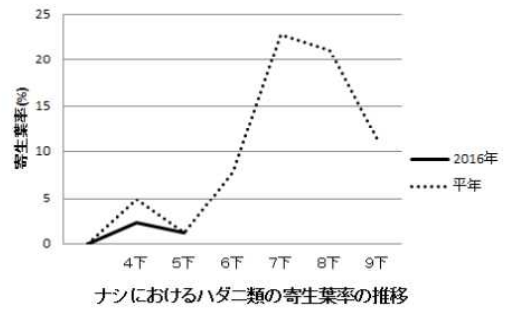
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ② 5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.2%（平年1.2%）と平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ② 5月12日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率8.7%（平年20.4%）、発病株率0.2%（平年0.5%）と平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) ベと病

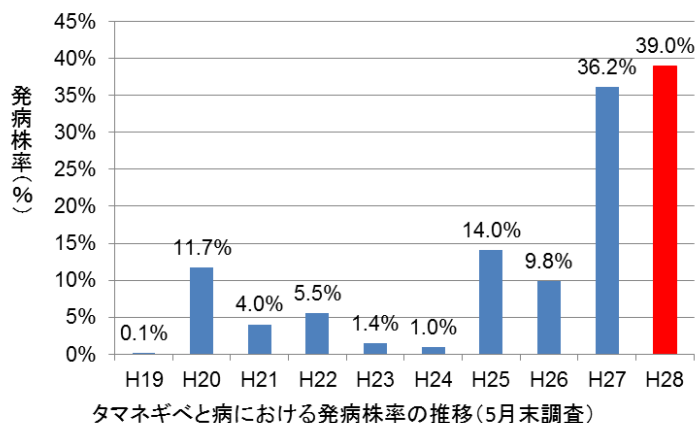
予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率87.0%（平年44.1%）、発病株率39.0%（平年8.7%）と過去10年間で最も多い。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

注) 平成27年度 注意報第3号（平成28年3月30日付）発表中



(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

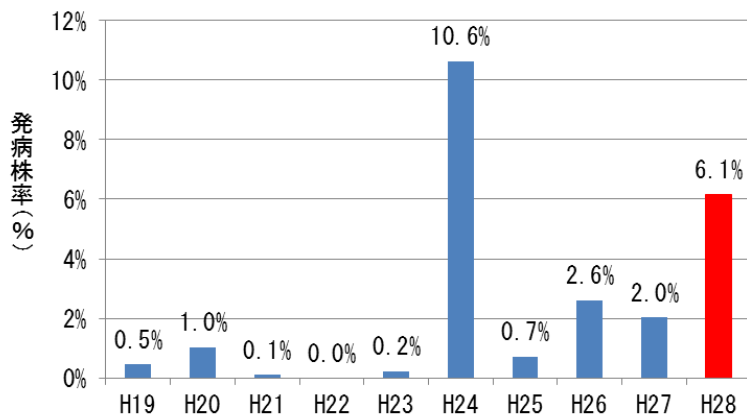
発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

①巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率52.2%（平成35.4%）、  
発病株率6.1%（平成1.8%）と平成に比べて多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。



タマネギ腐敗・軟腐病における発病株率の推移(5月末調査)

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

[島根県病害虫防除所ホームページ](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/) : [http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp